国語科学習指導案

日　時　平成28年5月19日（木）第1校時
対　象　1年3組（男子20名　女子20名　計40名）
指導者　教　諭　　山　　宗　功

1　単元（教材）名　　質問力を磨こう（「チームの力を引き出す質問」三省堂）

2　単元設定の理由

(1) 教育的意義

知識基盤社会と言われる現代は，パソコンやスマートフォン等の情報機器によって必要とする情報がすぐに手に入る時代になった。しかし，情報機器に頼るあまり，誰かに対して面と向かって質問や確認をして，情報や相手の思いや考えを引き出すという機会が減ってきている。そのため，日常生活の中で，得た情報を自分でしっかりと考えて整理したり，自分の考えや思いを相手に分かり易く伝えるために表現したりすることを経験することが少なくなってきている。

このような状況は中学生も例外ではなく，言葉を選んで相手の考えや自らが得たい情報を聞き出したり，得た情報を正確に捉え，自分の考えを構築する際に生かしたりすることを苦手とする生徒が増えてきつつある。また，そのことが原因で日常生活の様々な場面において誤解を招き，トラブルに発展することもある。

そこで，「質問」という日常生活においても他教科の学習においても必要とされる言語活動を取り立てて指導することによって，一方的な伝達や受動的受容のコミュニケーションから協働・対話型の能動的なコミュニケーションに転換されつつある現代社会に必要とされる言語能力を育成したいと考え，本単元を設定した。

本単元で教材として取り上げる「チームの力を引き出す質問」は，「質問する力」の基本となる知識や技能を取り上げ，日常の言語生活で当たり前のように使用している「質問」という言語活動の重要性を認識・理解し，自主的・能動的に質問の技術習得ができるように構成されている。

ここでは，求めたい回答に応じた質問方法を学ぶ「質問について学ぼう」という小単元と，効果的な質問を作成できたかどうかを対話によって検証する「登場人物と対話しよう」という小単元を設定した。

具体的には，まず，「質問について学ぼう」の学習で，答えを定める質問と答えの幅を広げる質問などの「質問の種類と型」を学ばせることで，形式や機能の面から「質問」という言語活動の多様性を理解させる。次に「登場人物と対話しよう」の学習で，これまでに得た「質問」についての知識を基礎として登場人物に対する質問を考えさせる対話を行うことによって，聞く力と話し合う力を高める。

このように，「質問」という言語活動を題材にするとともに，「対話」という学習活動を通して，生徒は質問する際の表現の仕方や視点を体験的に学び，「質問する力」を磨くことができるものと考える。このような学習を行うことは，生徒が創造的に思考する力を身に付け，「ことばの力」を高めることにつながると考える。

(2) 連関的意義

本単元は，ねらいと教材・学習活動の構成の系統において以下のような関連をもつ。

【第１学年】		【第２学年】		【第３学年】
「質問力を磨こう」 （チームの力を引き出す質問）		「対話力を磨こう」 （パネルディスカッション）		「創造力を磨こう」 （ワールドカフェ）
「質問」の種類と型を学ぶとともに物語の登場人物に対する質問を考えることによって，考えを深めるための質問をすることができる。	➡	話の要点を捉えて自分の考えと比べながら聞き，異なる立場や考えを尊重して，互いの発言を検討しながら対話することができる。	➡	それぞれの考えや思いを基に，対話することによって互いの価値観をすりあわせ共有し，他者と協働して新しい価値を創造することができる。

3　単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

(1) 積極的に質問の種類や型について学ぼうとしたり，学んだ質問の仕方を活用して，質問する相手の魅力を引き出そうとしたりしている。（国語への関心・意欲・態度）

(2) 実際に対話する中で，質問する相手が言いたいことを確かめたり，足りない情報を聞き出したりすることができる。（話す・聞く能力）

(3) 質問する相手の考えや思いを聞き出すために，学んだ質問の種類や型を活用して，効果的な質問を考えることができる。（話す・聞く能力）

(4) 語句のもつニュアンスやその語句を発するときの場の状況等に注意しながら，相手に質問することができる。（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

具体的には次に掲げる内容を重点的に指導する。

評価の観点	評　価　規　準	学習指導要領との関連
国語への関心・意欲・態度	①　質問する相手の考えや思いを引き出すためには，どのような質問をすればよいか，進んで考えている。 ②　友達との対話を通して，自分の考えを深めたり，学習課題の解決を図ろうとしたりしている。	
話す・聞く能力	③　質問を効果的に使い，自分の考えと同じ点や違う点を確かめたり，整理したりして，質問する相手の考えや思いを引き出している。 ④　質問を考える話合いにおいて，友達の考えを受容しつつ自分の考えを述べている。	エ　聞くこと オ　話し合うこと
言語についての知識・理解・技能	⑤　質問する際に，質問する相手の受け止め方や心情に配慮した言葉遣いをすることについて理解を深めている。	イ　言葉の特徴やきまり

4　単元の指導計画

(1) 単元設定の視点

ア　生徒の実態から

本学級では，「話すこと・聞くこと」の学習において次のような実態が見られる。

・　少人数での話し合いの際には，自分の意見を積極的に述べたり，友達の話をしっかりと聞いたりすることができるが，全体の話し合いの場になると消極的になり，自分の意見を述べることをためらったり，課題意識をもって聞くことができなかったりする生徒がいる。
・　全体の場において友達の意見に対して自分の意見や考えを述べたり，賛同したりすることはできるが，なぜそう考えたのかを友達に質問して考えを深めるまでには至らない生徒が多い。

このような実態から，指導にあたっては，質問の種類や型に関する知識を身に付けさせ，身に付けた知識を活用させることによって「質問する力」が高まることを実感させたい。

イ　指導の手立て（本校の研究内容との関連から）

(ア)「学び」を関連付けさせるための工夫（ア　学びを関連付けさせるための単元の設定）

これまでの様々な「学び」によって身に付けてきた力，知識や経験を，今後の生活場面や他教科の学習に生かすために，国語科では年間指導計画の中に「学びをつなげる授業」を組み入れている。

本単元の授業は，教科論の「学びをつなげる授業」に生かされる「学び」そのものとして，日常生活や他教科の学習を進める際に必要不可欠な「質問」に焦点をあて，その種類や型について学ぶ学習をした上で，実際に「質問相手の考えや思いを聞き出すために効果的な質問」を考えて，質問するという学習活動を行う。普段は漠然と認識している「質問」について，その種類や型，機能などについて学習した上で，それを題材として，対話する学習過程を組むことによって，「質問する力」が磨かれ，今後の日常生活や他教科の学習においても，思考を広げたり深めたりする創造的な活動を行う上で大いに役立つと考えられる。

(イ)　個の高まりを的確に捉えるための工夫（イ「振り返りカード」の活用）

授業を行う上で，生徒個々がどのように高まっているのかを的確に捉え，その状況に応じて学習を修正させるために，「振り返りカード」を記入させる。

授業の展開により，「振り返りカード」に記述される文章は変わってくるとは思われるが，概ね以下のような展開で課題を発見させて，その解決に向けての意識をもたせたいと考える。

学習段階	学習者自身に発見させたい課題と課題解決に向けてもたせたい意識
単元を概観する段階	「質問」は日常生活でも，学習活動を進める上でも行うことであるが，意識して学んだことはなかった。「質問」について学ぶことによって，よりよい「質問力」を身に付けたい。
試行活動の段階	実際に「質問」を考えて，質問相手に質問をしてみたが，思うように相手の魅力を引き出すことができなかった。「質問」をする上で，何か注意すべきことがあるのか，効果的な質問の仕方について学びたい。
質問の種類や型について学ぶ段階	単に「質問」といっても，「定める問い」と「広げる問い」があり，それぞれに「イエス・ノー型」・「選択型」，「情報取り出し型」・「思考うながし型」があることが分かった。試行活動で行った自分の質問で足りなかった部分を振り返り，今後の学習活動や日常生活で生かしたい。
登場人物と対話するための「質問」を考える段階	グループでの話合いをすることによって，自分では考えつかなかった「質問」を考えることができた。何かアイディアを考えるときには，いろいろな人の意見を参考にしながらよりよいものを考えるとよいことがわかった。グループで話し合ったことを生かして，文章を読み深めていきたい。
学習のまとめをする段階	単元の学習を通して，「質問」について学んだことによって，よりよい質問を考えることができるようになった。これからの学習活動や日常生活に生かしていきたい。

(2) 単元の指導計画（全９時間）

質問力を磨こう

質問について学ぼう

過程	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	評　価
導入	1　単元を概観し，学習目標や学習計画を確認する。 2　質問を題材にしたクイズを考える。 3　友だちの魅力を引き出すような質問を考える。	1	○　本単元が「質問」について学ぶ学習であることを知らせる。 ○　クイズによって「質問」に対する学習意欲を喚起する。 ○　個人で考えさせ，よい質問を考えることの難しさを味わわせる。	評価規準 ① 観察
展開	4　実際に友達に質問する。（試行活動）	1	○　質問によって友達の魅力が引き出せたかを確かめ，引き出せなかった理由を考えさせる。 ○　４人グループを２人ずつの２組に分け，１組の話合いの様子をもう１組が観察して，相手の魅力をより引き出せていた方はどちらかを考えさせる。	評価規準 ①②③ 観察 ワークシート
	5　質問の種類や型について学び，友達にした質問を分類する。	1	○　質問についての知識を基に，自分の質問を振り返らせ，質問の修正を考えさせる。	
終末	6　再度，友達に質問する。	1	○　相互評価させることにより，どのような質問が，相手の内面により迫ることにつながったかを振り返らせる。	評価規準 ①②③ 観察

登場人物と対話しよう

過程	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	評　価
導入	7　「空中ブランコ乗りのキキ」を読み，キキに対する質問を考える。	2	○　疑問に思ったことを基に，キキに質問したいことをできるだけたくさん挙げさせる。 ○　キキが簡単に考えや思いを語るような質問だけでなく，深く考えて心の内を語るような質問も考えさせる。	評価規準 ① 観察
展開	8　キキが心の内を語ってくれる質問の流れとしてよいものを選ぶ活動を通して，よい質問（の流れ）とはどのようなものかを理解する。	1 (本時)	○　同じ質問の流れを選んだ者同士でグループを作り，なぜそちらの質問の流れの方を選んだのか話し合わせることによって，質問の流れを考える上で重要なことに気付かせる。	評価規準 ①②④⑥ ワークシート
	9　前時の学習を生かして，キキが心の内を語ってくれる質問の流れを考える。	1	○　質問する相手の心情に配慮しつつ，「定める問い」「広げる問い」を織り交ぜた質問の流れを作成させる。	
終末	10　単元の学習のまとめを行う。	1	○　質問力を磨くことは，課題発見能力を高めることにつながり，他領域や他教科の学習，日常生活を営む上でも大切であることに気付かせる。	評価規準 ①② ワークシート

5　本時の指導（7/9）

(1) 指導目標

二つの「キキが心の内を語ってくれるような質問の流れ」を比較しながら対話する活動を通して，質問を考える際には，質問する相手の思考の流れや心情に配慮することが大切であることを理解できるようにする。

具体的には，主として評価規準③に即して，次の「話すこと・聞くこと」に関する能力の育成を目指す。

十分達成されている	二つの質問の流れを比較することを通して，種類の異なる質問（「定める問い」と「広げる問い」）を効果的に使い，質問する相手の思考の流れを考えるとともに，質問する相手の心情に配慮することによって，質問する相手が心の内を語ってくれる質問がよりよくなることを理解し，今後に生かそうとしている。
おおむね達成されている	二つの質問の流れを比較することを通して，種類の異なる質問（「定める問い」と「広げる問い」）を使うことや心情に配慮することが，質問する相手が心の内を語ってくれる質問を考える上では大切であることを理解している。
達成していない生徒への手立て	これまでのノートや学習振り返りカードを見直させ，質問には「定める問い」と「広げる問い」があったことを思い出させて，提示された二つの質問の流れについて考えさせる。また，その質問をされたときのキキの心情を考えさせる。

(2) 目標行動（G）

二つの質問の流れを比較して分かったことを，例えば次のようにまとめることができる。

○　一見したところどちらの質問の流れも，質問する相手に心の内を語ってもらえるように思えたが，二つを比較したことによって種類の異なる質問を効果的に用いたり，質問する相手の心情に配慮したりすることが，質問を考える上では重要であることがわかった。日常生活でも，質問の種類や質問する相手の心情に注意しながら，相手に質問するようにしたいと思う。

(3) 下位目標行動

①　A・Bのそれぞれの質問の流れを「質問の種類」と「質問される人の心情」の両面に着目して見直した上で，質問について例えば次のように発表することができる。

○　質問される相手が答えやすいように質問の種類を効果的に用いて質問することが大切だ。
○　心の内を語ってもらうためには，質問する相手の心情にも配慮する必要がある。

②　なぜその質問の流れがよいと思うのかについて，グループ及び全体で例えば次のように話し合うことができる。

○　Aは，「おばあさんはあなたにとって良い人・悪い人どちらでしたか。」という定める問いから，「それはどうしてですか。」という広げる問いに発展する流れになっており，おばあさんの存在をキキにスムーズに考えさせる質問の流れになっているのでBよりよいと思う。
○　Bは，「どうしてあなたは四回宙返りが一回しかできないと知りながら薬をのむことを決意したのですか」という問いから，さらに「四回宙返りができて幸せですか。」という問いに発展しており，Aよりもキキの心の内が聞き出せる質問の流れになっているのでAよりよいと思う。

③　質問の流れがよいと思う方を自分で選び，その理由を考えて例えば次のように書くことができる。

○　Aには，定める問い，広げる問いの両方が使われており，Bよりもキキがスムーズに答えられる質問の流れになっているから。
○　Bには質問の型が効果的に使われているとは言い難いが，質問の内容がAよりもキキの心情に迫るものであるから。

④R　本時の学習の流れを理解することができる。

⑤R　本時の学習課題を「キキが心の内を語ってくれる質問の流れとしてよいものはどれだろうか。」であると確認することができる。

⑥R　本時の学習目標を「よい質問の流れとはどのようなものであるかを考えよう。」であると確認することができる。

(4) 本時の実際

時間	学習過程	指導上の留意点	評価活動
	スタート	<導　入>	
5'	本時の学習目標と学習課題，学習の流れを確認する。 1 (⑥R，⑤R ④R)	・　本時は，キキが心の内を語ってくれる質問の流れとしてよいものを選び，なぜそう思うのかを「対話」を通してより明確にする学習であることを確認させる。 <学習目標> よい質問の流れとはどのようなものであるかを考えよう。 <学習課題> キキが心の内を語ってくれる質問の流れとしてよいものはどれだろうか。	
		<展　開>	
10'	よいと思われる方の質問の流れを選び，その理由を書く。 2 (③)	・　二つの質問の流れを比較して，どちらの質問の流れの方がよりキキの心の内を聞き出せるか判断させ，その理由をワークシートに書かせる。 ・　箇条書きでもかまわないので，思い付くことをできるだけたくさん列挙させる。 **<達成していない生徒への手立て>** ・　これまでのノートや学習振り返りカードを見直させ，質問には種類があったことを思い出させて，提示された二つの質問の流れがどのようなものであるか考えさせる。	○　二つの質問の流れを比較して，質問の工夫について考えることができたか。 (観察・ワークシート)
20'	どちらの質問の流れがよりキキの心の内を聞き出せるかについて，グループ及び全体で対話する。 3 (②)	**<達成している生徒への手立て>** ・　自分が選ばなかった方の質問の流れには，良さはないのかについて考えさせる。 ・　自分が選んだ質問の流れの方が，よりキキが心の内を語ってくれると考えた理由をグループ内で発表させる。 ・　グループ内で対話することによって考えを深めさせる。 ・　異なる質問の流れを選んだグループとの「対話」を行うための準備として，相手を納得させるような理由をグループ内で共有させる。	○　グループ内や全体での「対話」を通して，自分の考えを広げ深めることができたか。 (観察・ワークシート)
5'	二つの質問の流れを，質問の種類と質問される人の心情に着目して見直す。 4 (①)	・　全体での対話の際に，自分たちの説明に説得力をもたせるために，自分たちが選んだ方の良さと選ばなかった方に足りない要素を考えさせる。 ・　異なる質問の流れを選んだ人との対話を通して，自分たちが選ばなかった方の特徴やよさに気付かせる。 ・　相手を納得させるためには，明確な根拠や相手の意見を受け入れる姿勢も必要であることを理解させる。 ・　質問する際に大切なのは，「種類の異なる質問をすること」，「質問される人の心情に配慮すること」のどちらだろうかという問いを投げかける。	
10'	学習のまとめをし，次時の学習について確認する。 5	<終　末>	
	ゴール	・　今日の学習で分かったことやできるようになったことを確認させ，これからの学習に役立てようとする意欲を高めさせる。 ・　次時の学習は，学習したことを踏まえて，質問の流れを考える学習であることを知らせる。	○　どのような質問の流れを考えればよいか理解できたか。